イムマヌエル教報

2017.12

1947年7月1日第三種郵便物認可　2017年12月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

No.857

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

クリスマスの葛藤
――ナザレのヨセフに観る

ブロックアドバイザー　田中　進

今年もクリスマスの恵みを喜び祝う季節が巡ってまいりました。巷に多くの讃美歌が流れるのはこのシーズンをおいて他にありません。この機会に教会に多くの方々をお招きし福音を伝えたいものです。

＊

さてマタイの福音書のクリスマスの記事を読みますと、「この救い主の誕生」が喜びだけでなく、恐れ惑い、怒り、殺戮、悲しみをもたらしたことが記されています（ヘロデ王、エルサレムの住民、ベツレヘムの町）。

ヨセフはどうでしょう。マタイは「イエス・キリストの誕生は次のようであった」と淡々と記します。しかし、その内容は驚くべきことでした。「その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった」。彼はどれほど驚き、戸惑ったことでしょう。自分の身に覚えのない子どもを孕んでいるマリヤをそのまま、受け入れることは「正しい人」ヨセフにはできません。二人の関係は危機的状況に陥ります。これを公にすると婚約中のマリヤは姦淫罪で処せられます。ですから人間愛に溢れる、精一杯の決断を下します。「内密にさらせよう」。そうするならマリヤは処せられることはない。しかし、なお彼は実行に移す前に、「このことを思い巡ら」し続けたのです。それはさらなる対案を考えるというよりも、葛藤のなかで苦しみ悩んでいたのです。

その時、主は夢を通して語られました。「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」彼はその夢から覚めたとき、マリヤの胎に宿るものは「聖霊による」と、みことばを信じ受け入れ、従ったのです。ただ、結婚するというだけでなく、子に名をつけることによって、自分の子として受け入れ、その責任を担うことを決断したのです。

一方のマリヤも御子を宿すことを「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように」（ルカ一・38）。と主のみことばを受け入れました。

クリスマスの出来事はこの二人の信仰の決断なしにはあり得ませんでした。

＊

私たちは、身近な人との関係や教会、教団のさまざまな困難な課題に対して、人間的な角度から最善と思う決断をしても、実行に移す前にはなお葛藤や苦しみ悩みが尽きません。しかし、主は、私たちの思いを越えて、聖霊による新しいみ業を、みことばによって示してくださると、信じます。

私たちは、どんな苦難がその先に待ち受けているとしても、インマヌエルの主がともにいてくださるのです。「思いを巡らし」みことばを待ち望む者でありましょう。

目次

クリスマスの葛藤……田中 進……1
ホーリネス100年、神学委員会、クリスマス霊想……2
教団運営委員会、YSB報告……3
海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
近畿教区壮年会、IWF理事会、燭台…5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

Immanuel

東洋宣教会ホーリネス教会創設記念日

ホーリネス100周年記念集会

恵みとして受けた苦しみ
課題を共有し、克服へ

国内教会局長　内山　勝

去る10月31日（火）はルターの宗教改革500周年記念日でしたが、日本基督教団赤羽教会で、「ホーリネス100周年記念集会」が行われました。ちょうど100年前のこの日、中田重治らによって、東洋宣教会ホーリネス教会が創設されたからです。

同教会は、戦前に二度のリバイバルと分裂を経験した後、治安維持法によって、牧師たちが一斉検挙され、教会が解散させられるという苦しみを味わいました。戦後、それぞれの導きに従って諸教団に分かれて、今日に至っています。

16年前に、中田重治宣教100年記念大会が行われましたが、今回の集まりは、その和解の流れを確認することと、現在私たちが直面している共通の課題を乗り越えるために、さらに宣教協力を前進させるきっかけにしたいという願いをもって、企画されました。

午前の記念礼拝では、山口陽一氏（東京基督教大学）が「恵みとして受けた苦しみ」と題して、ピリピ一・27～30から語られました。苦難をも恵みとして与える神さまの愛に感動しました。共同司式による聖餐をもって、主にある和解を形にし、キリストにあって一つであることを感謝しました。短期間の準備でしたが、12教団が共催団体となり、85名牧師・信徒が出席しました。昼食では、くじ引きで各テーブルに分かれ、和やかな交わりの時をもちました。

午後は、日本ホーリネス教団、イムマヌエル綜合伝道団、基督聖協団から発題者が立てられ、各教団が直面している課題を共有し、それを乗り越えるために取り組んでいる働きを共有しました。

牧師不足、兼牧、教会の合同など、同じ課題に直面し苦闘している私たちですが、今後、主にあって連携・協力し、互いに励まし合いながら、主の御国の建て上げのために、共に前進したく願います。

神学委員会神学部会から

聖書や教会を学び 共に理解を深める

神学部会　國重潔志

いつも神学委員会、そしてその一部門である神学部会のためにお祈りくださり感謝申し上げます。

インマヌエル教団の常置委員会の一つ、神学委員会には神学部会、聖書部会、宣教部会、讃美歌部会があります。神学部会員は、岩上祝仁師、野田禎師、宮崎聖輝師、細田恒太郎師、そして國重の5名です。聖書部会と一緒に、年に数回ほど会合を開いています。

教団の内外の状況を見つつ、いま牧師たちが考えていくべき神学的案件について議論し、また数年に一度聖書部会と共同で発行する神学論集を通して、その議論の内容を教役者の先生方にお分かちしています。また、教団の諸部門からの要請に応じ、必要な神学的資料を集めて提出することも行われています。

神学とは、聖書や教会の教えを、現実世界で生きている私たちがどう受けとめ理解していくかについて取り組む大切な営みです。神学部会がさらに教団・教会に貢献できるようお祈りいただけますなら感謝に存じます。

クリスマスの

霊想

かいばおけの干し草に

ウェスレアン宣教師
アンドレア・スアトアウト

最近、「かいばおけの干し草に」というクリスマスキャロルが心に留まっています。

今年の6月にアメリカに帰国しました。日本での次の働きのサポートをお願いするためです。多くの仕事があり、各地への移動、宣教報告などの働きが一年余り続きます。この4か月で、すでに2万5千キロ運転しました。10月、自宅で過ごしたのは8日間だけです。アメリカに帰るといつも実家に滞在するのですが、最近両親が引っ越したので、家族と離れ、ルームメイトと生活しています。ご存じのようにわたしは家にいるのが好きな人間です。アメリカがもう私の家ではないことから、今回の帰国はいつもより厳しいものとなっています。旅行が続く中で、今回は、自分の家にいるのだという感覚になれる場所がありません。自分の家を望みつつも、今わたしがこの働きに携わる理由を思い起こし、それが前に進む気持ちを与えてくれます。

わたしがよく思うのは、イエスさまの誕生とそのご生涯が、ご自分の故郷から離れていたことです。想像してください。天の広がりの中に父なる神さまと住んでおられたのに、家畜に囲まれた飼い桶の中に、肉体の弱さを持った人間として生まれるというそんなことのために、天の家を離れたのです。それはまた、母マリアと父ヨセフの故郷からも離れた場所でした。そして、生まれるとまもなくエジプトへと逃げることを余儀なくされました。公生涯を通じて、イエスさまは弟子たちと町から町へと旅を続け、自分の家と呼ばれる場所を持つことはありませんでした。イエスさまはご自分が地上に来られた意味を理解し、犠牲を知りつつ、あなたのため、そして私のために自ら来てくださいました。私が今払っている犠牲はイエスさまのものとは比べものにはならないでしょうが、主は私が通過している困難をよく知り、いま私を顧みていてくださると思うのです。

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」（ヘブル四・15～16）。メリー・クリスマス！

教団運営委員会から……

総会と年会に向けて

広報　川嶋直行

11月13日（月）～14日（火）本部会議室で定例の教団運営委員会が開かれました。冒頭、藤本満代表によりヨハネ二章8～10節が開かれ「今は理解できなくても、やがて分かる時が来る。だから主のチャレンジに応答して行こう」とお勧めがありました。今回の教団運営委員会では、各部局からの報告とともに、第73次年会ならびに第21次総会期にむけて多岐にわたる検討がなされました。主な点を紹介いたします。

ホーリネス100周年記念集会時に行われたホーリネス系13教団によるシンポジウムの報告がなされました。各教団の共通課題である牧師不足に対し、より一層の協力が求められていることが認識されました。教会統合を恐れる気持ちに寄り添いつつも、教会間協力や、牧師と信徒の協労を推進するチャンスとして、もう少し積極的にアピールして行くべきではないかとの意見が出されました。

国内教会局関連では、今後必要となるであろう教区の再編問題や本部直轄体制、結婚サポートシステムとカナ・フェロシップ、伝道サポートシステムへの取り組みについて報告、検討されました。人権委員会パンフレットが千部印刷され、役員リーダー研修会で活用されて行きます。新設される予定の信徒局については、ゆるやかに体制を移行して行くことと、教団が信徒を委員に任命するとき、主任牧師や教会との間に混乱が起こらないようルールを設ける必要があるとの意見が出されました。

聖宣神学院のメンテナンスでは、旧女子寮の雨漏りがあり、年会やキャンプにも使用できるような研修施設としてリフォームすべきかどうか、メンテナンス委員会を中心に検討されている由報告がありました。今後しばらくは市街化調整区域から外れることはないであろうとの調査結果や、本部が入っているOCCビルの建替えも視野に入れ、総合的に検討して行く必要があります。BTCで年会をと望む声はありますが、実際に可能かどうか、教団全体で将来像を考えて行かなくてはなりません。

夜のセッションでは、教職委員だけが残り、人事委員会案を基に慎重に討議がなされました。「牧師を送りたくても人がいない」厳しい現実を前に、しばし沈黙が続きました。困難の中にも、備えられている主の道を、喜びと希望をもって進むことができるよう祈りましょう。

第3回 YSBリトリート報告

祈り…大丈夫、聞こえてますよ

11月3日（金）～4日（土）

牧師委員　寺村秀嗣

30代、40代を対象に聖書の学びと交流を深め、主の招きに応える場として、11月3日（金）～4日（土）の週末、BUMB（東京スポーツ文化館）で、第3回YSBリトリートを開催しました。「祈り…#大丈夫、聞こえていますよ」をテーマに、祈りについて理解を深めるときとなりました。主講師には菅家庄一郎先生（OMF日本委員会総主事）をお迎えしました。

全国30教会から82名の参加者が集いました。今回はお子さんを連れて参加された方々をサポートするために4名の牧師、宣教師方が御奉仕くださり、別室での子ども向けプログラムが行われました。保護者も安心してメッセージを聞くことが許され、とてもよかったとの声が寄せられています。ご愛労に心から感謝申し上げます。

オープニング礼拝では、牧師委員の吉村和記師が「祈りは、私たちを輝かせる」（詩篇三四・3～6）と参加者を招き、スタートしました。そしてアイスブレイク（自己紹介、ゲーム）と写真素材を自由に台紙に貼り付けて自分のコラージュを作り、参加した思いや今の自分自身を表現し合いました。菅家師は2回の集会で祈りについて講演してくださいました。

講演1（3日夜）「歴史を変えた祈り」（Iサムエル一章1～28節）苦悩の中に本気の祈りをささげたハンナが、主と同じ目線、一つ心を与えられていく歩みが世界を変えていくさまを私たちの祈りの歩みと重ねました。

講演2（4日午後）「イエスが教えた祈り」（マタイ六章9～13節）当たり前に唱えている主の祈りを改めて読み直し、神ご自身が中心であること、そして神に心から期待して良いことを確認しました。また菅家先生は、日々祈りの課題を変えるなど、祈り続けるための工夫も提示してくださいました。

4日午前の分科会は6つのテーマでわかれました。菅家師と青年委員がそれぞれ担当し、①マリッジコースをやってみませんか（既婚者向け）②独身者向け結婚の備え③世界宣教を通して見る祈りの世界（菅家師）④10年後の教会を考えてみよう⑤伝道と献身⑥クリスチャン生活と社会、など各テーマについて学びと分かち合いをすることができました。

全国の教会でこのリトリートのためにお祈りくださり、参加者を温かく送り出してくださった先生方、教会の皆さまに心から感謝申し上げます。また教育局からの温かいサポートにも感謝いたします。全国の青年委員が本部会議室に集い3回の準備委員会を持つことができました。参加者がこれからも各教会で祈りを継続できますようにと願っています。

海外トピックス

■アラブ語聖書をスーダン当局が今も輸入差し押さえ

スーダン当局が紅海沿岸のポートスーダンで、首都ハルツームへ向けたアラブ語聖書のコンテナ1個を事情説明なしに2年以上も差し押さえていると、英国『モーニング・スター・ニュース』。

スーダン聖書協会によると、同時に差し押さえられていた別の1個は港湾局への抗議によりすぐに輸送が認められたが、現在まで、協会はハルツームでアラブ語聖書を1冊も頒布できていない。スーダン教会の匿名の指導者は、国内で聖書やキリスト教書の利用制限はますます強化され、「聖書を得ることは難しい」と言う。テロリストとの結び付きや人権侵害を理由に米国が科してきた経済制裁を、10月12日付で正式に解除すると明らかにしたことで、聖書禁輸策も緩和されるのでは、とキリスト教指導者は期待している。

■ネパールで『改宗禁止法』成立

ヒンズー教徒が多数を占めるネパールで、ビドヤ・デビ・バンダリ大統領が10月16日、改宗や宗教感情を害する行為などを禁じる『改宗禁止法案』に署名し、同法が成立したと、米国のキリスト教迫害監視団体『世界キリスト教連帯』（CSW）が20日伝えた。CSWによると、バンダリ氏が法案に署名した日は、国連総会でネパールが国連人権理事会（UNHRC）の新理事国15カ国の一つに選ばれたのとまさに同じ日。

ネパールでは2015年9月、憲法が改正され、新たに他人を改宗させることを禁じる条項が盛り込まれたが、実際に改宗の禁止を規定する法律はこれまで成立していなかった。

■オーストラリアが12月にも同性婚合法化

オーストラリアで行われた郵便による国民投票で同性婚支持が過半数に達した。ロイター通信によると、任意参加の郵便投票の形で約2か月かけて行われた国民投票の結果が統計局から11月15日発表され、同性婚合法化への賛成票が全体の61・6％、反対は38・4％だった。有権者の約80％が参加した。これを受け、12月初めまでに合法化法案が可決される見通し。法案が可決すれば、オーストラリアは26番目の同性婚合法化国となる。

（平瀬聡樹）

国内教会局から

新約の諸教会再訪

分け隔てなく福音を

パウロがいずれは訪れなければと願い続けた地、最果てのローマ（実際はさらに西のスペインにも眼を向けていますが）。この手紙を綴った時点では未だ辿り着かぬ宣教地です。しかし、彼の思いはすでにそこにあります。教会の様子を探るのは容易ではありません。ユダヤ人が多く集まる教会なのか、それともローマ人やギリシャ系がメインの会衆なのか。ただ、当時世の中ではユダヤ人を嫌悪する雰囲気が広がっていました。問題はその世の中の雰囲気が教会の中まで浸食しても良いのかというところです。やたらと勝者・強者に憧れ讃えたり、逆に「弱いものの味方」を振りかざしたり。教会は時代が笛を吹いても弔いの歌を歌っても、踊らされたり揺さぶられたりせずに頑として「誰でも救われる」を掲げるところなのです（ローマ一〇・13）。ローマ教会はそのチャレンジにどのように対応するのでしょう。そして私たちの教会は？

（蔦田崇志）

読書のひろば

新装・再版された日々の霊想

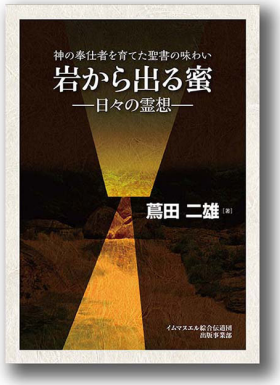
岩から出る蜜

神の奉仕者を育てた聖書の味わい

蔦田二雄 著

インマヌエル出版事業部刊

定価二、三〇〇円



一年365日、日々神さまの御声を聞き、神に語りかけるひと時を守ることは、健全な信仰生活を続けるために、三度の食事以上に大切なことです。密室の時、静思の時、最近ではディボーションの時などと呼ばれています。聖書はもちろん欠かせないツールですが、それとともにディボーションを有効に守るための脇役として「日々の読物（聖書、みことば、霊想、などなど）」が数多く出版され、用いられています。優れた霊的指導者が存命中に、それを目的に発刊されたものもあれば、生前に遺された文書が整理、編集されたものもあります。また内容も、ほとんど聖句だけを抜粋、編集したものから、聖書全巻またはその一部の重要聖句を講解するもの、重要聖句を挙げてエッセーを記すもの、などさまざまです。

そういう中で本書は、信仰的・神学的なテーマのもとに、実際に語られたメッセージが収録されています。

インマヌエル綜合伝道団の創立者、蔦田二雄初代総理が、同じく神学院の初代院長として心血を注いだのが、若い神学生たちの霊的教育・訓練でした。中でも学期中の毎週月曜の夜、3時間、4時間、時には半徹夜で行なわれた合同祈祷会は、さながら外科手術室のように、神さまのメスが学生一人ひとりの霊性の最奥部に触れられるといった経験が稀ではありませんでした。本来は神学生のためのもので、門外不出の説教でしたが、長く女子寮監としてその場に居合わせ、これを忠実に聞き取り、ご自分も消化しつつ成文してくださった故国光幾代子先生が説教メモを提供してくださいました。それを元に、信徒の方々にも理解できるように整理されたものです。幸い教団外の読者からも好評を得ております。

しばらく在庫切れでしたが、要望に答えて新装再版されましたので、来年の聖書日課のテキストに是非使っていただきたく推薦いたします。

（三森春生）

第13回近畿教区壮年部大会

テーマは「将来と希望を与える教会」

＊＊＊

京都伏見教会　大兼久芳規

11月3日に、第13回の壮年部大会が近畿教区で開催されました。

近畿教区では、毎年壮年部の兄弟方が一年をかけて準備をしてくださり、壮年部大会を行ってきました。それは、第一回全国壮年部大会に参加し「このような大会を教区でも」という思いからでした。

今年のテーマは「将来と希望を与える教会」と題して、牧師と兄弟方3人が、このテーマについてご自身の体験を通して発題をしてくださいました。牧師の高齢化、引退による兼牧の増加、今のインマヌエルの現状に心を向けつつ、自分たちに今できることは何なのかを考え、神に祈り、外に向ける伝道とともに自らの内側に光を当てる幸いが語られました。

午後には5つの分科会に分かれ、①救いを感謝し、分かち合う時としての「救いの証し会」。②大切な家族や身近な人に、福音を伝えるにはどのようしたらよいのか、成功や失敗例を伺いながら学びました。③「教会建設ときよめ」では、教会を建て上げるための具体的な方策を分かち合い、その後求道者の方々に証しとなる真にきよめに生きるクリスチャンの道が話されました。④「改憲問題とキリスト教」では、憲法20条〈信教の自由〉の改定案の問題点について考えるひと時が与えられました。⑤「兼牧時代」では、引退の多い時代に、いかに教会を守り、建て上げていけるのかの方策を考えました。

今後も、教区内で兼牧等の戦いがあるときには、自らが教区に置かれている意味と責任を考え、教区内で対応をしていくことはできないかとの提言もあり、そのために日頃、教区のメンバーが顔を合わせ、悩み、共に考え、相談をし合える「信頼関係」の土壌が構築されていることが、これらの問題を乗り越えていくための大切な手段であることを感じました。定期的に壮年部大会が開催されることの意義を教えられた一日でした。

IWF理事会から

積極的に教会にお招きください

世界宣教局長　梅田登志枝

IWF理事会が11月14日（火）本部会議室で持たれました。

久しぶりに日本に来られたザーク師の司会により、コロサイ三章12節からお勧めを頂きました。

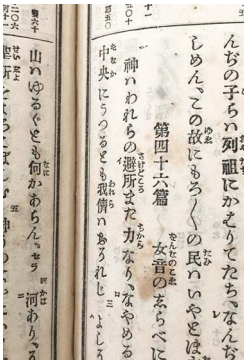
会計報告、議事録が承認された後に、インマヌエル教会、ウェスレアン教団宣教局（GP）、ワールド・ゴスペル・ミッションからの報告がありました。特にウェスレアンの太平洋、東南アジア地区担当者としてティム・ギャラント師（現カンボジア宣教師）を初めて迎えました。ロビン宣教師は名古屋を拠点に奉仕し、来年末には、報告のためにカナダに帰国予定です。アンドレア宣教師は、来年春に日本に再赴任の予定です。ホーリー宣教師は、関東を中心に地方教会でも活動し、来年10月には報告のためにアメリカに帰国予定です。マッツ宣教師一家も関東を中心に活動しています。ブランドン宣教師は、現在アメリカで巡回報告中で、来年春の再赴任を目指して準備をしています。

宣教師たちはあらゆる形で国内教会の働きに協力したいと願っています。宣教師を積極的にお招きください。

燭台

開かれた書物に

聖書新改訳2017」がいよいよ私たちの手元に届きました。奥付には、2017年10月31日発行と記されています。これが500年前1517年10月31日、宗教改革を意識した出版であることは明らかで、私たちに感動を与えます。▼今日私たちが使用している日本語聖書翻訳の歴史は他に譲るとして、私はいま、書架にある元訳聖書を開いています。その奥付には、明治三十七年三月二十六日印刷・明治三十七年三月三十一日発行・大正元年十月二十四日再版、発行所・米國聖書會社　印刷所・福音印刷合資會社　とあります。その詩篇四十六篇の一部を写真で紹介します。旧字体、変体仮名と句読点のない「元訳聖書」は、文語に慣れていない私たちにはなかなか手強いものです。▼宗教改革が契機となり、聖書が「開かれた書」となりました。ルターは「落雷の危機の経験」から修道士となり、神学を学ぶために修道院からエアフルト大学に遣わされました。彼はそこで初めて聖書を見たといわれています。つまりその当時は、聖書に接する機会は極めて限られた人たちであり、またラテン語を読める人たちもごく一部に限られていましたから、一般民衆には「聖書は閉ざされた書物」だったのです。▼私の書架にある「元訳聖書」は、日露戦争の年に出版されたものです。その後関東大震災、東京大空襲を経て、黄色く変色し染みの浮かんでいる頁に、元所有者による赤鉛筆、青鉛筆の線が引かれ書き込みがされています。「かれ詬られて詬らず苦られて厲言を出さず只義を以て鞫く者に之を託たり」（彼得前書第二章）その人となりを偲ばせる書き込みが方々にあります。▼さて、今度の「新改訳2017」は、私とどのような関わりを持ってくれるでしょうか。私はこの聖書にどのような書込みをするでしょうか。聖書を通して語りたもう神と深く交わる「開かれた書物」となりますように、と祈るものです。因みに先の引照は、Iペテロ二・23です。（国光勝美）



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

巻頭言

異邦人を照らす啓示の光

世界宣教局
梅田　昇

「エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。」
（ルカの福音書一章25節）

今年も主の憐れみに支えられて主のご降誕を祝うクリスマス節季を迎えました。ヨセフとマリアがユダヤ人の慣習に従って、幼子を神様にささげるために神殿にやって来た時、シメオンがいたのです。

第一に、シメオンは正しく、敬虔な人でした。「主は聞かれた」という意味を持ち、神様を畏れ、人の前に真実な生活を送っていた人物でした。神様に祈りながら、真実に敬虔な生活を送っていたのです。

第二に、シメオンは、待ち望みの人でした。イスラエルの慰められることを待ち望んでいたのです。それは彼がメシアを待ち望んでいたことを意味します。ある人たちは、ローマ帝国の圧制からの解放を願い、政治的な解放者を待ち望んでいたことでしょう。多くの人々は、政治的なメシア、解放者を待ち望んでいたのですが、シメオンは、救い主の誕生を待ち望んでいたのです。

第三に、シメオンは、聖霊の人でした。「主のキリストを見るまでは、決して死なない」と、いう御告げを聖霊から受けていたのです。聖霊は、約束の通り、シメオンを導いてくださり、救い主イエス様に合わせなさったのです。

シメオンに抱かれた幼児イエス様は、どのような顔をされたのでしょうか。シメオンは、幼児イエス様を抱きながら、神様を心から賛美したのです。彼の賛歌は、「ヌンク・ディミツス」と呼ばれます。

シメオンの賛美に、「救い主は異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です」とあります。シメオンは民族的な狭い主ではなく、異邦人にまで光をもたらす救い主であるとを確信しています。まさに、シメオンは、神様の愛とご計画を啓示され、普遍的な救い主の故に、心から賛美をささげているのです。

シメオンの賛美にあるように主キリストは、「異邦人を照らす啓示の光」であることを覚え、楽しくクリスマスを祝うとともに、神様から離れ、希望のない人生を送っている方々に福音を伝える良い機会となるように意義深く今年のクリスマスを迎えようでありませんか。

CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃＊2017年11月6日

「しかし、ダビデは彼の神、主によって奮い立った」
（Ⅰサムエル三〇章6節）

カンボジアの畑に働き人が各地から戻ってきました。最後に私が11月21日から一か月間、加わり、全員集合となります。ヴァンディ先生ご一家はマニラからご子息ダビデ君の発達障害の診断確認と治療指導を受けて帰国、マーク宣教師は3ヶ月の報告帰国を終えて11月9日に帰国、加えて愈々WGMの働きを開始するべくクメール人、テトス師と米国人のご夫人の奥様と二人の子供さんが10月末に赴任、ティト師はヴァンディ先生とは肉親の兄弟以上の親しい仲で、彼が約束通りカンボジアの働きのために戻ってこられたことに励ましを与えられております。WGMの働きとして活動を開始されますが、霊の一致のもと、変な縄張り意識はなく、福音の勝利を目的とした戦いをすることが期待されております。お互いに助けが必要な時には手を差し伸べるだけでなく助けを求め合って御国の拡大のためにカンボジアの救霊と弟子作りを目指した活動がなされて行くことでしょうと期待し祈ってゆきたいと思います。そこに一ヶ月間私も加わり、伝道者の訓練、巡回、本部他2つの建設の視察の日々を過ごします。

10月31日に腰からくる痺れの精密検査の機会が与えられ、そこで告げられた思いがけない「主の御手」の御業は、医学的見地から見る限りMRIに見る脊椎狭窄は、発症後から今日に至るまでの3年、宣教活動はできないはずの状況であり、それが許されたことはまさに神の御手としか言えません。奇跡的な本部の建物入手の時も「聖徒方の祈りの結果」と語られましたが、今度は2回目の奇跡の御業が証しされたこと、生きておられ、祈りを聞き届け、御心の時に御業を行って下さる主に改めて感謝すると共に真実に御祈り下さって宣教の働きに加わって下さる聖徒方にも心からの御礼を申し上げます。

神様の祝福が始まると、それを妬み、妨げようとするサタンの働きは思わぬ隙を狙って崩しにかかってくることは今も昔も変わりません。マニラ滞在中、ダビデ君がソファーからジャンプして床に転び落ち、机の角に目をぶつけ瞼を切りました。幸いにも瞳が守られました。医療費は重なる一方です。なお続くカンボジアでの霊の戦いのためにお祈り下さい。

ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子＊2017年11月6日

10月に入りザンビアは真夏の暑さになりました。暑さが続いたと思うと、スコールのような雨が降り、雨季が始まりそうです。例年より早い雨季の始まりで多くの農家は予想外の天候に農作の準備に焦っているようでした。クリニックでは外来病棟の修復作業が行われました。待合所の床や壁、天井、窓を直していただきました。今回の修復はある中国の投資家が教会を通して支援してくださったことで、かなったことでした。この話が出たのは8月でその後、進展がなかったため、どうなったかと思っていたところに、急にトラックが来て「修繕作業しに来たので物を全て移動してください」と言われ、通常のサービスを提供しながら、物の移動作業をし、臨時外来、臨時薬剤倉庫室、書類の移動などなどを3日間で行いました。スタッフが協力し合いながら移動作業が行われました。現在、産科病棟も保健省のプロジェクトによって去年の末から建設が進められています。また、倉庫として使用しているコンテナを適当な場所へ設置する作業も進められています。このプロジェクトに愛の泉献金の一部を利用させていただいており、大きな助けとなっています。

クリニックでの働きでは、いろいろな理由でスタッフの不在があり、人手不足でしたが守られました。特に雨季前の水不足の中、水質が悪くなり消化器の症状を訴える患者多く訪れました。赤痢菌の症状を訴える患者もおり、衛生管理について注意を促しています。またザンビア首都ルサカではコレラ、南部州の街では腸チフスの患者が出たことが報道され、感染が蔓延しないよう注意が訴えられました。

今月中に就労ビザが切れるため、9月から延長手続きを行っており、その確認にルサカに出かけました。ビザはまだ準備ができておらず、待機期間延長の手続きをして戻ってきました。宣教師館は外灯の取り付け作業が終了しました。電気は電力が低く、使用量が多くなる夕方から夜には電気が入ったり切れたりの日々です。この電気会社はザンビア唯一の電気会社ですが、問題も多く汚職が蔓延しています。宣教車の手続きは仲介会社から領収書の原本が届き、その領収書を財務省に持って行き税金の適用場外（宣教車と認められると免税される）の申し込みを進めています。

KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2017年11月6日

全国看護師ストライキがようやく終結しました。お祈りを心より感謝申し上げます。昨年12月から百日続いた全国医師ストライキが延長につぐ延長で行われたこともあり、ほとんどの病院は閉鎖し続けていたようで、テヌウェック病院のように開いている数少ない病院の過密状態が延々と続いておりました。これからは少しずつその負担が減少していくのではと期待しています。

看護学生と言えば、以前も受け入れた他校から、テヌウェクの看護学校生徒と重なる形で実習の申し入れがありました。テヌウェクの学生だけで既に理想の人数から超過していると前回書きましたので「無理」と回答したいところでしたが、総師長を通して今回だけ何とか、ということになり、残された数日で前回同様2パターンのスケジュールを作成しました。半徹夜になりましたがなんとかスケジュール作成出来ました。その後も選挙のために自習は中止、学生は一週間自宅待機、それは良かったのですがそのような事情なのでもう実習には戻らないと聞かされていたグループが戻ってくるとその日の朝に聞かされたり、当初の予定よりも1週間延長になったと数日前に聞かされたり、だいぶ振り回されました。前回までよりも学生の態度が概ね積極的なのは感謝です。

2回目の大統領選挙は10月26日に行われました。最大野党の候補者が立候補を取り下げ支持者にはボイコットを呼びかけたため、一部では妨害により投票ができなかったり延期になった地域がありました。しかし30日には現職大統領が勝利、と結果発表されました。野党は今回の再選挙の正当性に疑問を唱え、引き続き経済ボイコットや抗議運動等を行う旨を呼びかけているため、最高裁にまた提訴して3度目の選挙になるのか、行く末はまだ混沌としています。引き続きお祈りをお願い致します。

選挙関連の暴動や混乱が各地でみられていますが、警察もかなり強い警戒態勢を敷いており、全国規模には至っておりません。今月は8年生（日本の中2）や4年生（日本の高3）の全国一斉テストがあることもあって抑え気味であるという話もあります。

11月は例年のように主任が長期休暇を取ります。主任代行の一端を担うことになる小さき者のためお祈りください。

TAIWAN

台　湾

平瀬義樹・光世＊2017年11月10日

日本では、十月に二週連続の台風襲来でしたが、台中教会では、二週連続でゲストをお迎えする形となりました。第一陣は、元台湾宣教師からの紹介で、大阪のある教会の宣教訪問チーム6名が支援している台湾の現地教会・病院・福祉施設を安問する途中に、私共の教会にも立ち寄られたものでした。事前に、ひとりの兄弟が先遣隊として来台され、訪問チームの来台計画をご相談下さり、当初、かなりの超強行日程だったものを無理のない日程に変更をし、満を持しての来台となりました。しかしながら、来台当日が台風21号の接近に伴う大荒れの天候となりました。午後早目のフライトでしたので、予定通りに離陸でき、台湾では少し風が強いだけの晴天でした。折りしもその日は、台湾からインドに赴任国が急遽変更になったI兄の送別礼拝でした。教会の愛兄姉方の積極的な提案で急遽、礼拝後に愛餐会を企画され、日本

からのチームもこれに加わり、教会としては久しぶりの持ち寄り愛餐、楽しい、有意義なお交わりのときとなりました。国が違っても、置かれている立場や環境は異なっても、同じ主に仕え、共に信仰の歩みを進んで行く幸いを覚える時となりました。

翌週は、9月以降、ほぼ毎週、礼拝に集うようになられたNさんのご主人とその教会のメンバー6名をお迎えしました。第5聖日が牧師不在となるため、日本語が全くできない愛兄姉方も、ぜひ礼拝を守りたいという申し出を受けてのものでした。礼拝で歌うすべての讃美歌を日本語と中国語の併用の形にし、日中の対訳聖書、交読文を用意しての礼拝でした。言葉や文化の違いを越えて、共に心からの賛美をささげました。礼拝後のお交わりでは、常のように日本語と中国語、台湾語が飛び交う交わりとなりました。

二つの聖日を越えて、教会の核となるメンバーの心に教会への意識・姿勢の変化が芽生えつつあります。二週とも、ゲストの方がいつも集う私たちよりも早く教会に来ておられた。教会メンバーが集会後、愛餐会後、ひとり又一人と帰っていく中、ゲストを最後までもてなしていたのは牧師夫妻だった。私たちの意識を変えなければいけない。教会にゲストとして来るのではなく、ホストとして迎える。このような心の持ちようで、大きく教会は変わっていくのではないでしょうか。牧師任せの、ある特定の人任せの営みではなく、みんなで少しずつ役割を分担し、主を愛し、教会を愛して、主のみからだなる教会に連なる者たちでありたいと願うことです。夏以降教会の愛兄姉方の集会出席の足並みが揃うようにとお祈りを頂いていますが、依然として出入りの多い中です。お祈りを宜しくお願いいたします。

PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子＊2017年11月6日

10月12日午前7時20分、第四子次男が誕生しました。朝、恭子に「産まれる」と起こされ、子どもたちを起こし、身支度をし家族で病院へ。到着してものの15分ほどで産まれました。夜明けから連絡を取っていた担当医も間に合わず、分娩室に行く暇もなく、救急のベッドでの出産でした。上の子供たちの時もそうだったのですが、誕生の瞬間、常喜は涙が出てしまいました。「誕生は奇跡」と今夏の宣教訪問団のメンバーに教えてもらいましたが、まさに「奇跡」に遭遇した感動の瞬間でした。ピリピ一章11節から義実（いさみ）と命名しました。神様が私たちに与えて下さった4つの「果実」（希乃実、実和子、実喜、義実）がこのフィリピンの地でスクスクと元気に育ち、人々に愛される者として成長していきますようにお祈りください。

義実の出生届、そして戸籍謄本の取得はフィリピンでもできるのですが、戸籍を取得するのに二ヶ月かかります。その二ヶ月の間に緊急事態が発生したとき、私たちは身動きが取れなくなります。そのため、局長に許可を頂き、10日程帰国して手続をしました。これから、義実のパスポートの申請、取得、さらにビザの申請、取得と、ロサリスとマニラの往復が続きますので、引き続きお祈りの程、よろしくお願い致します。

■会計報告10月分

宣教献金　九四七、五一〇円
月平均　一、八六七、八〇〇円

お祈りの課題

カンボジア（蔦田緑乃）

◆再会された各宣教師方の働き、現地人の伝道者の救霊の結実のため御霊の御働きを

◆グレッグ師の開拓教会（PCC）の自立と弟子訓練、ヴァンディ師の教会での弟子訓練の祝福を

◆子供の教育費、医療費の為祈る

伝道者やグレッグ宣教師のために主の御答えを、と同時に蔦田の健康の支えと使命の完成のためにお祈り下さい。

ザンビア（富澤）

◆巡回の祝福

◆日本の寒さに耐えられるように

◆車の購入に関わることが最善に守られるように

ザンビア（根廻）

◆クリニックで行われている工事のために

◆伝染病の蔓延から守られるように

◆延長ビザが無事に取れるよう

◆宣教車のために

香港（鹿島）

◆世界宣教局長の訪問感謝と今年のクリスマスの祝福のために

◆広州（番禺／祈福）での働きのために、良い出会いが与えられますように

◆香港社会の平和と良い日中関係が保たれますように

ケニア（蔦田就子）

◆今の所全国的な混乱からは守られている感謝

◆10月からの看護学生が良い学びをすることが出来るように

◆大統領選挙再選後のケニアが治安の悪化から守られるように

フィリピン（豊田）

◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、学びと訓練に励むことができるように

◆神学教育の働きのために。今学期は常喜が「ウェスレー神学」「ダニエル書・黙示録」を教えています

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのために。（恭子と義実のために）

台湾（平瀬）

◆教会の諸集会の足並みが揃うことがあり、感謝します。クリスマスに向かって一致できるように

◆私たち宣教師家族の健康と生活が守られますように。義樹の腰痛の癒しのため

◆台湾を取り巻く複雑な国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定を見るように。

東京國際教会（蔦田康毅・由理）

◆8年間の東京國際基督教会における華人宣教が守られた感謝

聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

市井（しせい）の季節

院長●河村 従彦

「飼葉おけに寝かせた」（ルカ二・7）

イエスさまはなぜ馬小屋でお生まれになったか。歴史の偶然かもしれません。しかし、一つの理由は、羊飼いが最初の訪問者だったことにあったという見方も可能です。もしイエスさまが律法学者に最初にご自分を現したいと思われたら、馬小屋ではなく、神殿の中庭を選ばれたかもしれません。

有名人の赤ちゃんであれば、わたしたちはすぐには会えません。ところがイエスさまは、だれもが会える場所にご自分を置かれます。ですから、イエスさまにお目にかかるには普通でよいのです。

「わたしはお招きを受ける準備ができていません」。そのままでよいのです。「わたしは神さまのことがよくわかりません」。そのままでよいのです。「わたしの家はこんなです」。そのままでよいのです。これを恵みといいます。

ところが、だれもが行ける場所は、だれもが行けない場所にもなります。変な気負いがあればむずかしいでしょう。普通でいいはずなのですが、普通であることはけっこうむずかしいのです。格好つけてしまうのです。

神さまが、人々の見える場所にご自分を示したいと思っておられるとしたら、見えるところに福音を示す工夫はどうだっただろうか。イエスさまがご自分を置きたいと思っておられるところにイエスさまを置くことができただろうか。自らを省みるクリスマスです。

神学院の任命をいただいたとき、何人もの信徒の方が、こういう卒業生を送り出してほしいという要望をくださいました。それらをまとめると大体三つになります。(1)人間の心理がわかる牧師、(2)境界線を踏み越えない牧師、(3)市井の牧師。もちろん人を造るのは神さまです。しかし、この表現には一理あると納得しました。おそらく、人の心にとどく現場目線という意味でしょう。イエスさまは市井で会ってくださる方です。そういう生き方をしたいと思います。

図書館スタッフ　毎週木曜日が出勤日です

神学エッセー

神学の用語について②
「神の『全能』と『自己限定』」

小川宣嗣

聖書は明確に、神さまはどんなことでもおできになる方であり、神さまに不可能は事は一つもないと教えます。神さまご自身が何度も、「わたしは全能の神である」（創世記一七・1他）と自己紹介され、新約においてもマリヤに現れた天使ガブリエルが「神にとって不可能なことは一つもありません」（ルカ一・37）と証言し、主イエス様も「神にはどんなことでもできます」（マタイ一九・26）と教えなさいました。このご性質のゆえに、神の救いのご計画・契約は確かな信ずべきものとなります。罪人が救われ義と認められること、神の聖なる品性に似たものと造り変えられること、やがての日に主イエス様の復活に与り栄光の体へと変えられることなど、信仰生涯全体の恵みを成り立たせるのは、神が全能の力をお持ちだからであり、人には不可能であることがこの方には可能だからです。

しかし、だとすると、なぜこの世の中には様々な悪や災い、矛盾や理不尽が満ちあふれているのか、やはり神さまにもおできにならないことばかりなのか、という疑問が湧くのは自然です。神の全能性は、その人格的意志と切り離されては説明できません。

聖書は、神さまにおできにならないことがあることも明確に述べています。神さまは「ご自分を否むこと」（Ⅱテモテ二・13）、「偽ること」（ヘブル六・18）、「誘惑され罪を犯すこと」（ヤコブ一・13）などはできないお方であると教えられています。だからこそ、逆に罪に対しては完全に自由な存在であられるのです。罪ある人間は、罪や悪に対して完全な奴隷状態にあり、「自分でしたいと思う善を行わないで、かえってしたくない悪を行う」という不自由・不可能に縛られています。神は聖と愛のご性質を否定できないゆえに、絶えずご自身の意志によって全能の力の発動を制限なさる真の自由をお持ちです。〝できる〟けれども〝なさらない〟、それが最も良く現れたのが十字架の場面です。「十字架から降りてみろ。奇跡の力を見せて、自分を救ってみせろ。そうしたら信じてやるから」との周囲からの大合唱に対して、主は全能の力を自己限定され、愛の意志によって「降りない」という選択を貫かれた故に、贖い（真の自由への道）が切り開かれました。

「全能」と「自己限定」の概念を健全に理解し、ふさわしく生きる者でありたいと願います。

◆インターン実習の中で

恵みによって

正規コース　松尾信子

インターン実習のためにお祈りを頂き、ありがとうございます。また白鳥教会では、先生方、兄姉の良きご指導とお交わりを頂き、心から感謝申し上げます。

今年、教会では、いつもの年以上に、伝道の年として、教会年頭聖句、「あなたがたは世界の光です。山の上にある町は隠れる事がきません。」（マタイ五・14）とのみことばを頂いてスタートされたことをお聞きしました。私はそこに、4月から加わらせて頂いています。

ウェルカム礼拝（伝道礼拝）、福音花茶（日曜午後の伝道的な集い）、土曜日のキッズアワー（子どもの集い・月1回）、特集として、ファミリーコンサート、カルポスコンサート、教会の組会の充実など、新たに始まった伝道形態を通して、地域の方々に、また、教会関係者の方々の為にも開かれていくところとして、進んでまいりました。そして、それらの方法や組織以上に、先生方、兄姉が、真実に互いのために祈り、愛をもって仕え合っている事、また福音経験に生きていらっしゃる事を通して、伝道の働きを進めている事を教えて頂いています。

神さまは、教会の祈りに応えて下さり、新しく集われる方々を起こしてくださっています。さらに、救いの恵みに与られる方々が起こされるように祈っています。

私自身は、多くの恵みを見させて頂きながらも、時に自分の乏しさを痛切に感じることがあります。ですが、そこにも主がともにいて下さり、愛する方々もまたともにいて下さっている事を思います。主の御業に聖名を崇めつつ、恵みによって進んでまいりたいと願っています。

「それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒された。」（マタイ九・35）

●後期の学びの中で

黒板と向き合う最後の学期

正規コース　金成星美

「主を恐れることは知識の初め、聖なる方を知ることは悟りである。」（箴言九・10）

「神学院での黒板と向き合う学びはこの後期が最後。」後期が始まる時、私は最初にそう思いました。事実、来年度からはインターンに入り、遣わされた教会で実践の学びをする期間に入ります。もしかしたら、今学期が神学院で過ごす最後の時間かもしれないと思うとなんだか卒業するかのような寂しさが迫ってきます。

すでに後期の学びが始まり、牧会学、五書、キリスト教概論、説教学、メソジズムなどの授業を学んでいます。どの授業を受けていても、ただの学問ではなく、信仰がその土台にあることが大切であることを改めて感じています。まだまだ先生方から学んでいたいと思ったりしてしまいますが、先生方がよくおっしゃるのは、「神学院を出た後も学び続けなければいけない」「神学院では学び方を学ぶんだ」ということです。神学院での学びだけで完成されるわけではないこと、伝道者として生涯学び続けなければならないことを心に刻ませていただいています。

司書の三森春生先生　泊まり込みでご奉仕くださることも

先日の神学院教師会の先生方とのお交わりの時、神学生はそれぞれ神学院生活の中での楽しいことを発表しました。神学生たちがそれぞれ発表したことや自分の中で思い浮かんだことを改めて考えてみると、この神学院での時間はかけがえのないものであるなと、優しく、面白く、頼もしい先生方の笑顔に囲まれながらしみじみしてしまいました。やり直せないこの大切な時間を、イエスさまの助けをいただきながら、目の前にある学びに取り組み、牧会の現場に出て行った時どう活かされていくのかよく考える時としていきたいと願います。

●後期の学びの中で

完成にむかって

聴講生　秋田郁美

「強く、雄々しく、事を成し遂げなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。神である主、私の神が、あなたとともにおられるのだから。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てず、主の宮の奉仕のすべての仕事を完成させてくださる。（Ⅰ歴代誌二八・20）

後期の授業が始まりました。思えば、この後期が終わると私は入学してから丸3年がたつことになります。一緒に入学した2人の神学生は後期の学びが終わると、来年の4月からインターンとして教会へ遣わされていきます。私といえば、聴講生なのでまだ来年も机上での学びが続きます。

4月からは聴講生から正規またはシニアコースに変更して学びたいと思っています。神学院では今まで取得した単位が認められ、卒業に必要な単位に繰り入れられます。ですので、来年度からは残りの単位を早く取得できるよう、学びに集中したいと思っています。

この3年間、家庭と仕事、教会の奉仕と学びを両立することができたのは主の憐れみと、積まれた祈りのおかげと感謝しております。我が家の次男も来春大学を卒業し、社会人となる予定です。経済的にも楽になり、いよいよ神学校の学びに集中できることを楽しみにしています。後期も2つの授業だけという、とてもゆったりとしたペースですが、聴講生としての最後の授業として、また同級生の2人とも机を並べて一緒に学べるのは最後かもしれないので、しっかりと勉強したいと思います。そして来年度からの本格的な学びに備えたいと思います。

来春卒業する方々と過ごすのも今学期が最後となります。願わくは、来年度一緒に学ぶ新たな仲間が加えられることを期待してお祈りします。

私の神学生時代

ウェスレーを示されて

7期生●國重雅治

1955年に7期生として入学を許され、1958年に卒業し、今年の3月末で引退するまでの59年間、伝道者として過ごすことを許され、神様のお導きに感謝し、同労者を始め多くの方々のお祈りに心から感謝しております。神学院に入学時の私はまことに未熟なもので、先生方、上級生、同級生、さらに下級生の方々に迷惑をおかけしたものでした。お詫びとともにお礼を申し上げます。これまでを振り返り「私が植えてアポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」（Ⅰコリント三・6）のみ言葉を示され、私にとりましてパウロやアポロであってくださった初代院長蔦田二雄先生を始め指導をしてくださった先生方に感謝する次第です。

神学院に入学し伝道者としての訓練を受ける一歩を踏み出したとき、月曜日の夜に院長蔦田二雄先生自ら指導してくださいました合同祈祷会は祈りとはどういうことかを教えられ、自らの霊性を整えられ、伝道者として生きる心構えを示された、まことに大切な時でした。その合同祈祷会の始まるまでの時間、緊張し開始のベルを待っていたのを今も思い出します。

当時、教科書は院長蔦田二雄先生が口述されるのを先輩の神学生が筆記したものでした。その筆記されたものを下級生は書写し、それをもってクラスに出ておりました。ですから、時間があれば、書写しておりました。そのようにして書写したノートもってクラスに出ますと、先生ご自身の教えを今度は自分で欄外に書き込んでいました。欄外に書き込んだ教えがすばらしく、伝道者としての在り方を教えられる大切なメモでした。

院長蔦田二雄先生がクラスで、ここでは基礎を学び、卒業後一生をかけて学び続けるようにと語られたことを思い起こします。その語られた中で、特に私の心に留まりましたのはウェスレーのキリスト者の完全を指さしてくださったことです。神学生時代はそのようなものかと思うほどでしたが、卒業後伝道者として生きる上で、他のきよめの書籍以上にウェスレーの「キリスト者の完全」、説教集を通してきよめに生きることを学び続ける大切さを知りました。ですから、私にとりまして、初代院長蔦田二雄先生はウェスレーを指さしてくださり、私の伝道者としての生き方の基礎を据えてくださったお方でした。

私を植え水を注いでくださった先生方に感謝し、育ててくださった神に感謝をささげております。

同窓生の近況

40期生

浜田教会●浜田耕三

召命の聖言（イザヤ41・10）だけを握って踏み出した伝道者生涯ですが、主の憐みと背後のお祈りに支えられて四半世紀、福音の働きの一端に与かることがゆるされて参りました。最初の任地、大阪伝法教会（14年）では「仕える」ことを教えて頂きました。（大阪生まれの4人の子供たちは、教会やご近所の方々の大きな愛情によって育てて頂き、今なお「大阪人」としての誇り?!を持っています！）また島田教会（12年目）では教会の皆様の真実な助けを頂きながら「支えて頂く」恵みを教えられております。

昨年来、キリスト教系団体が管理する老人ホームで定期的に聖言を語る機会が与えられ、また他の施設でも献堂式や研修会でのご用のお招きを頂いています。（開所式では市長さんを前に講壇に立ち、まるで「パウロ」になった気分でした。）尚も地域に根差しながら、あらゆる機会を通じて福音を証ししたく願っています。そして島田の地から宣教の器が送り出されるべく労して参りたく願っています。

神学院スタッフ…恵みの想起

編集・印刷の奉仕③

図書館　三森春生

IGMの出版事業は1952年に出されたジョン・ウェスレー著『基督者の完全』の刊行が最初だが、これは戦前の赤沢元造訳の版権を譲り受けての再版であり、自前の本格的刊行物としては蔦田二雄著『聖潔の生涯』が初めてだ。

刊行にあたり原稿の校閲から取りかかったが、たくさん買ってもらうには読みやすくなければと思い、蔦田師の文体の特色を分析し、若干の語順の交替と文語調から口語調への変更、当用漢字使用などを試みて原稿を整理した。原文が書き原稿でなく、講述筆記原稿であったことも幸して読みやすい本にできた。その後、十数冊の刊行に携わったが、著者の香りを失うことなく読者が理解できる文章表現を追求することが編集者の妙味であろう。

了

学苑だより

●クリスマスおめでとうございます。受肉のイエスさまの祝福をお祈り致します。

●授業は15日（金）までで、クリスマス年末休講期に入ります。

●12月28日（木）～30日（土）のBTCリトリートで、皆さまをお待ちしています。聖会は一般公開です。年末の静かなひとときをキャンパスでお過ごしください。

●「後援会たより」第2号はご覧いただけましたか。礼拝ご出席の皆さまにお受け取りいただける部数をお送りしています。

●後援会からのお願い　各教会の世話人のご推薦をお願い致します。お問い合わせは中山会長まで。

●創立70周年記念改修工事は第一期工事を終え、2018年から第二期工事に入ります。本館屋根などの補修、不使用建屋の解体などが含まれます。お祈りください。

●神学院祈り会は5日（火）です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、10月の会計報告をさせて頂きます。

10月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥723,875
教会団体による「神学院献金」
￥616,362
合計￥1,340,237
その他の献金（一時・特別）
￥169,250

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

二〇一七年　祝　降誕節

「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。」

（イザヤ書九章6節）

この年もクリスマス、年末の月を迎えました。世の救い主として来られた主イエス・キリストの聖誕を待ち望むアドベント（待降節）の期間に入り、各教会においてさまざまな準備が祈りとともに重ねられていることでしょう。

各教会におけるクリスマス関連の諸プログラム、及び年末年始の諸集会に、豊かな助けと導きを祈ります。また、特に、幸いなクリスマスの節期に、各教会に導かれる方、また受洗者が興されますようお祈りいたします。

■本　部

例年この時期に全国の教会は、「クリスマス・下半期感謝献金」を実施しています。主への感謝、働き人への感謝を表すための献金に、愛兄姉方のご協力をいただきたくよろしくお願いいたします。

【牧師・会計担当者へのお願い】

教会年度の区切りを迎えますが、各教会は通常会計だけでなく、会堂会計、予備会計などの特別会計の会計処理を明確にして、1月に持たれる教会総会に備えましょう。

なお、年報など新年度事務報告書類一式を、12月5日付けで本部から発送いたします。提出期限は1月23日（火）となっておりますので、遅れないようによろしくお願いいたします。

書類の中に、2018年度の「教団主要行事予定表（暫定版）」が含まれています。予定に関して、修正や付加の情報がございましたら、本部総務局までお知らせください。年会時に確定版を出す予定です。

■第21次総会・全国大会・第73次年会

来年の総会（3／3）・全国大会（3／4）・年会（3／5～6）は、各自の参加期間が異なりますので、総会代議員・牧師・信徒ともに、交通・宿泊の手配は各自でお願いします。総会の受付開始は午後12時、年会の受付開始は午前10時となります。年明けに全牧師と信徒総会代議員には、「交通宿泊費・食事代支給申請書」をお送りします（宿泊の手配は泊朝食付でお願いします。昼夕食は食事代を支給します）。ご質問は本部総務局まで。

〈年末・年始の業務〉

本部　12月19日（火）まで

　　1月9日（火）から

出版　12月21日（木）まで

　　1月11日（木）から

〈新年聖会〉

明年年頭も各地域で新年聖会が予定されています。今から、年始めの聖会に出席することを予定に組み入れ、新年の良きスタートを切らせていただきましょう。

■国内教会局

一年の締めくくりの月、各教会ではクリスマスの洗礼式を目指して備えがなされています。求道者方々が明確な救いに与られ、受洗へと導かれるように、教会全体で祈りましょう。

〈伝道サポートシステム〉

▽先月もたれた国内教会局運営委員会にて、来年度の伝道サポートシステムの検討がなされ、5教会（高崎泉、越谷、王子、横浜、松山）の申請が承認されました。それぞれの教会における働きが豊かな実を結ぶことができますようお祈りください。

■世界宣教局

▽11月の宣教聖日を目指して宣教コイン献金にご協力いただき感謝いたします。この献金はまず、宣教地から申請された「愛の泉プロジェクト」によって現地の具体的必要のために用い、また局全体の働きのためにも使わせていただきます。また、来る1年もご協力をお願いいたします。なお本部送金においては「コイン献金」の項目にて送金をお願いいたします。

▽11月13日（月）ザンビアの根廻恵子宣教師から、購入した車（トヨタ、ハイラックス）が無事に無税で到着したとの感謝の連絡がありました。

▽蔦田緑乃宣教師はカンボジアでの先月からの短期奉仕を終え、今月21日に帰国予定です。旅路の安全とご健康の支えをお祈りしましょう。

〈IWF関係〉

▽宣教師たちの動き（2018～2019年）

＊帰国報告

ホーリー宣教師　2018年10月中旬～2019年9月頃

ロビン宣教師　2018年11月中旬～2019年10月頃

＊再赴任

アンドレア宣教師　2018年3月頃

ブランドン宣教師　2018年4月頃

▽来年度、宣教師を招くために、IWF基金からの援助を希望する場合は、2018年5月、11月のIWF理事会前に、申請書をご提出くださるようお願いいたします。用紙請求は担当の梅田登志枝まで。

〈SIBS関連〉

國重潔志師は先月初めよりSIBS（南インド聖書学校）での理事会、80周年記念大会、また3週間の神学クラスの講義を終え、今月初めに帰国を予定しています。旅路の安全を祈りましょう。

■聖宣神学院

▽第5回BTCリトリートのご案内

日時　12月28日（木）夜～30日（土）午前

聖会講師は沼津シオン教会の荻野倍弘先生です。聖会は一般公開。リトリートに登録しておられない方もぜひご参加ください。

参加対象者は、献身について考えている方。献身者が与えられるように祈っていてくださる方。参加したい方。年末に静まりたい方。どなたも参加できます。

教会にお届けしたチラシをご覧ください。教会締め切りは12月10日（日）です。

▽日程の変更のお知らせ

春の入学審査は2月26日（月）、卒業式は3月2日（金）にそれぞれ変更になります。

▽BTC後援会からのお願い

各教会で「世話人」の推薦をお願いします。

▽神学院祈り会

5日（火）午後6時から、本部会議室です。

消息報告

▼山形教会（釣俊栄師）では、クリスマス前の完成引き渡しに向けて工事が進められています。

第21次総会・第73次年会に向けて

総会・年会準備祈祷会

日時＝2月5日（月）

午後2時～3時30分

会場＝東京・御茶ノ水

OCC411会議室

説教　川嶋直行師

教報PDFパスワード＝5527